

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文) AB		アフリカ熱帯林における動物性タンパク質の交易拡大と漁撈活動の持続性			
研究テーマ (欧文) AZ		Sustainability of inland fishing activities under the condition of wild animal protein source trade expansion in African tropical rainforest			
研究氏 代表名 者	カナ CC	姓) オオイシ	名) タカノリ	研究期間 B	2010 ~ 2012 年
	漢字 CB	大石	高典	報告年度 YR	2012 年
	ローマ字 CZ	OISHI	TAKANORI	研究機関名	京都大学
研究代表者 CD 所属機関・職名		京都大学アフリカ地域研究資料センター・研究員			
概要 EA (600 字~800 字程度にまとめてください。)					
<p>中部アフリカのコンゴ共和国（ブラザビル）では、1990 年代後半から 2000 年代初頭にかけての内戦後、首都ブラザビル市を中心に都市への人口集中が進んでいる。低地熱帯林が卓越する北部地方においても、内戦中に伐採区の売却が進んだことにより熱帯林開発事業が活性化し、人口密度の小さい熱帯林内に局所的な人口増加と都市化現象をパッチ状にもたらしている。2011 年 3 月にコンゴの北隣に接するカメルーン共和国東南部、2011 年 10-11 月と 2012 年 3 月にコンゴで現地調査を行い、コンゴ盆地北西部を流れる、コンゴ川支流、サンガ川流域における地域住民による漁撈活動の概要と、地方都市と首都の双方における淡水魚の流通と消費の実態について、野生獣肉や保存海産魚、家畜肉、冷凍肉等のタンパク質源と比較しつつ把握した。動物性たんぱく質の供給源である同国北部サンガ州における漁民のセンサス調査により、都市化した地域を中心に急増した動物性タンパク質需要は、周辺地域における商業狩猟だけでなく、商業漁撈を活性化させたことが裏付けられた。大都市の市場への供給量をみると、保存のきく燻製魚とマカヤブ(makayabu)と呼ばれる塩蔵魚が大部分を占める。サンガ州の農村地域で行った広域調査からは、淡水魚は、獣肉とともに特に内戦で交通インフラがずたずたになり、換金作物栽培などが困難になった熱帯林地帯の住民にとって、ほとんど唯一の現金収入源となっていることも明らかになった。欧米を中心とした国際的な世論に後押しされた自然保護運動により、中部アフリカ諸国は 1990 年代前半から次第に法整備を進めて狩猟規制を強化し、狩猟が可能な地域や方法に大きく制限を加えている。ごく最近、世界遺産に登録されたンドキ国立公園などを抱えるコンゴの保全行政は、森林地帯でのブッシュミートに代わるタンパク質源として、漁撈活動による水産資源に期待しており、本研究により得られた資料は熱帯林地帯住民の食料安全保障を両立させるための施策を考える上で貴重な貢献をなすものと考えられる。</p>					
キーワード FA	熱帯林保全	食料安全保障	商業漁撈の持続性	コンゴ共和国	

(以下は記入しないでください。)

助成財団コード TA					研究課題番号 AA								
研究機関番号 AC					シート番号								

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）									
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	「カメルーン東南部における狩猟採集民=農耕民関係と嗜好品一酒が媒介する交換経済と市場経済」							
	著者名 <sup>GA</sup>	林耕次、大石高典	雑誌名 <sup>GC</sup>	『人間文化：Humanities and Sciences』					
	ページ <sup>GF</sup>	29 ~ 43	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	2	巻号 <sup>GD</sup>	30
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	"Cash crop cultivation and interethnic relations of the Baka Hunter-Gatherers in southeastern Cameroon."							
	著者名 <sup>GA</sup>	OISHI Takanori	雑誌名 <sup>GC</sup>	African Study Monographs					
	ページ <sup>GF</sup>	115 ~ 136	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	2	巻号 <sup>GD</sup>	Suppl. 43.
雑誌	論文標題 <sup>GB</sup>	「右下眼瞼皮下で虫体の運動とみられる所見が観察されたロア糸状虫症疑診例」							
	著者名 <sup>GA</sup>	三島伸介ほか（第5著者：大石高典）	雑誌名 <sup>GC</sup>	『臨床寄生虫学会誌』					
	ページ <sup>GF</sup>	68 ~ 71	発行年 <sup>GE</sup>	2	0	1	1	巻号 <sup>GD</sup>	22(1)
図書	著者名 <sup>HA</sup>	奥野克巳、山口未花子、近藤祉秋編（分担執筆：大石高典ほか10名）							
	書名 <sup>HC</sup>	『人間と動物の人類学』							
	出版者 <sup>HB</sup>	春風社	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	2	総ページ <sup>HE</sup>	363 (担当 94-129)
図書	著者名 <sup>HA</sup>	Élisabeth Motte-Florac, Yildiz Aumeeruddy-Thomas and Edmond Dounias, eds.(分担執筆：大石高典ほか82名)							
	書名 <sup>HC</sup>	"Hommes et Natures"							
	出版者 <sup>HB</sup>	IRD Editions	発行年 <sup>HD</sup>	2	0	1	2	総ページ <sup>HE</sup>	175 (担当 63, 143)

欧文概要 EZ

In Congo Brazzaville (RC), population of city dwellers is increasing after the last civil war from the late 1990s to the beginning of 2000s. In the northern area of the country, where lowland swamp forest prevails, commercial logging operation accelerated by concession sales in the times of civil war established small patches of population concentrated cities inside tropical forest. These cities demand much of animal protein from forest ecosystem. The research was conducted at Brazzaville city and in Sangha province of RC. The research revealed that the demand for animal protein facilitated commercialization of inland fishing activities as well as commercial hunting against forest mammals. The larger part of fishes are smoked or salted for long distance transportation and market distribution in the city. Extensive survey in rural area showed that fishing became one of a few sources of cash income for local people. The first hand data obtained about local market value, distribution network of aquatic fishes, and importance of fishes in daily meal consumption of city dwellers will contribute to the discussions on the potential of aquatic fishes as an alternative animal protein source to bush meat, so that food security of increasing city dwellers can be assured in harmony with rainforest environments.